

全県一学区化後の状況

『高校教育改革の成果等に関する検証結果 「男女共学化」及び「全県一学区化」について（答申）』（平成 26 年 7 月 県立高等学校将来構想審議会）より抜粋

第 4 章 「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証

3 「全県一学区化」に関する現状把握

（1）生徒の地区間流入出入の状況

② 成果及び課題等

地区間の比較で見える限りにおいては、現段階では、特定の地区・学校への志願の集中は見られませんが、全県一学区化前と比較して、県全体として同一地区の公立高校以外への進学割合や、公立高校における同一地区以外の中学校出身者の割合がともに高くなっていることから、一定程度、地区間の流動化が進んでおり、学校の選択幅が拡大したと言えます。

教育委員会においては、生徒の地区間移動が更に進むか否かについて、平成 25 年度に入試制度が改まったことも踏まえながら、今後の推移を継続して見ていくことが必要となります。

第 5 章 宮城県の高校教育のさらなる充実に向けて

「男女共学化」及び「全県一学区化」は宮城県の高校教育の基本的な制度・枠組みを変更するものであって生徒や保護者に与える影響が大きいものであり、これらの施策の有効性や合理性を把握し、成果の把握又は課題の抽出へと繋げていくためには、中長期的な視点から継続してデータ分析を行うことが必要であることから、第 2 期審議会から継続して検証を進めてきました。

データ分析や現地調査の結果、全体としては、学校生活において男女が共に学び、理解し、成長し合う場が設けられ、また、学校の選択幅が拡大するなど、当初の目的に沿った制度運営が図られていました。

このことから、すべての県立高校が男女共学化し、また、全県一学区化が実施されてから 3 年以上が経過しますが、概ね安定した教育活動が行われており、大きな弊害や課題は生じていないと言えます。

《参考》

1 大崎地区の中学校卒業生数のうち全日制高校進学者数

(単位：人)

	大崎地区の中学校 卒業生数のうち 全日制高校進学者数	進学先の高校所在地	
		大崎地区	他地区 (①)
平成 28 年度	1,878	1,608	270
平成 29 年度	1,843	1,561	282
平成 30 年度	1,813	1,537	276

(教育企画室調べ)

2 大崎地区に所在する全日制高校への県内中学校からの入学者数

(単位：人)

	大崎地区に所在する 全日制高校への 県内中学校からの入学者数	中学校の所在地	
		大崎地区	他地区 (②)
平成 28 年度	1,920	1,608	312
平成 29 年度	1,875	1,561	314
平成 30 年度	1,852	1,537	315

(教育企画室調べ)

3 他地区との出入り

(単位：人)

	(②-①)
平成 28 年度	42
平成 29 年度	32
平成 30 年度	39